39　台湾における医療宣教師（missionary doctors）の歴史

福永　　肇
金城大学 社会福祉学部 社会福祉学科

1. はじめに

台湾の医療レベルは高い．台湾の近代医療は，日本統治時代（1895–1945 年）に整備された衛生医療制度が基盤となって発展してきた．日本の出先官庁の台湾総督府は国家の威信をかけて体系的な医療提供体制構築を進めた．台湾総督府の政策と比べると極めて微弱ではあるが，欧米のミッションが西洋医学を台湾に導入し普及させて来た脈路も知っておく必要がある．清朝，日本，戦後のいずれの時代においても，医療宣教師（含む医療伝道師，missionary doctors）の台湾医療への貢献は大きい．台湾における医療宣教師の歴史を纏めてみた．ここでは彼らの医療活動を見てみる．

2. 医療宣教師の活動

台湾島は古来「瘴癘（しょうれい）之島」（瘴癘とは熱帯地方の疾病を指す）と呼ばれ，マラリアやペストなどが猖獗を極めていた．台湾，澎湖諸島は馬関条約（1895 年）により統治国が清朝から日本に変わる．台湾では日本の統治時代を日治時代または日據（にっきょ）時代という．瘴癘之島を健康之島へ変えるため，台湾総督府は診療所や病院を開設し，医師を積極投入する．医学校や医学部の開校，熱帯病の克服，アヘン患者の減少などを通じて内地並みの医療衛生環境への整備推進をした．そして敗戦に至り，カイロ宣言，ポツダム宣言の条項に従って日本は台湾，澎湖諸島から撤退する．台湾の戦後の医療に関する日本人の知見は薄いと言える．

台湾総督府の保健医療整備と並行して，キリスト教の医療宣教師個人による地道な医療提供という脈路が台湾では連綿と続いている．台湾ではプロテスタントは基督教，カソリックは天主教と呼ぶ．どちらも 19 世紀の中ごろの清朝時代に台湾に来て，今日に至っている．ミッションを派遣した教会はスコットランド，イギリス，カナダ，アメリカである．

1858 年に天津条約が締結され，台湾を含む 10 か所の開港，キリスト教の布教自由と宣教師保護などが決まった．日治時代になる以前の 1865～1895 年の間に 21 人の宣教師が上陸し，内 8 人は医師でもあった．

最初に台湾に上陸した医療宣教師は 1865 年の英国長老派教会の James L. Maxwell（馬雅各）であった．台南の「看西街醫館」で診療を行い，その後，打狗（現・高雄）に移り台湾最初の西洋式病院（8 床）を開設する．1891 年に英国に帰国．Maxwell と交流があった医師に 1866 年に打狗で診療所を開設した Patrick Manson（萬巴德）がいる（宣教師ではない）．彼はマラリア原虫を発見し，「熱帯医学の父」と敬せられている．1871 年にカナダ長老派教会から George L. Mackay（馬偕）が来台し，1882 年に「滬尾（こび）偕醫館」を開設した．台湾では彼は「近代医学の父」と慕われている．

医療宣教師の使命はキリスト教の布教であり，医療は布教手段であった．しかし彼らが台湾に西洋医学を導入した意義は大きい．もちろん医療宣教師の背後にはその活動を支援した多くの医療者や信者がいる．

1895 年から日治時代になる．1896 年，医療宣教師 David Landsbourough 3 世（蘭大衛）が台湾中部の彰化で医療伝導を開始する（現在の彰化基督教醫院に至る）．1900 年，Maxwell の志を継いだ息子（James L. Maxwell jr）が台南に来て，最新鋭の病院「新樓醫院」を開設（今日の「台南新樓醫院」）．

日本人の医療伝道師には井上伊之助がいる．彼は 1911 年から長年に亘り山岳住民への献身的な医療提供を行い，1930 年には台湾総督府の現地開業医試験に合格している．

日本敗戦後，国民党政府は国家神道を廃止する．この機会にキリスト教が勢力を持って布教し，神道からの改宗者を多く獲得した．特に原住民で多くの信者を得ている．各地に基督教病院が開設された．

3. 現在のキリスト教の医療施設

現在台湾にはキリスト教の病院が 26，診療所 6，療養入居施設 8 があり，総病床数は 8,748 床である（2018 年現在）．なお 2017 年度の台湾の病院数は 483，診療所 22,129（内，歯科 6,791），総病床数 167,521 床となっている．